

## 第7章 中国の海上法執行海上プラットフォーム 兵力組成、能力、および動向

ジョシュア・ヒッキー  
アンドリユー・S・エリクソン  
ヘンリー・ホルスト  
五島浩司〔訳〕

中国の軍隊は3つの主要な組織に分けられ、それぞれに海上構成部隊を有している。中国海軍は、人民解放軍の増員および予算の増加を主張している。人民武装警察は中国海警局を含む中国の海上法執行部隊を率いている。それから、民兵は海上ユニットである中国海上民兵の割合が増加している。3つの海上部隊は船舶総数については世界最大である。米国の軍用中心の造船業とは異なり、中国の大規模な商業用造船業は、3つの海上部隊すべての船舶の建造にかかる経費を支援している。これは中国が3つの部隊すべてを効率的に建造あるいは近代化できることを裏付けるものであり、強化された中国海警局を中心とした第二の海上戦力である海上法執行部隊の増強をもっとも優先している。

10年以上にわたり、中国は遠隔海域で海上法執行船を運航する能力を大幅に向上させる大規模な海上法

執行戦力近代化プログラムに取り組んできた。近海におけるグレーゾーン海上作戦の重要な構成部隊である中国海警局は、グレー・ハルの戦闘艦艇を直接使用することなく、地域の海上事態に対する北京の影響

てを効率的に建造あるいは近代化できることを裏付けるものであり、強化された中国海警局を中心とした第二の海上戦力である海上法執行部隊の増強をもっとも優先している。

10年以上にわたり、中国は遠隔海域で海上法執行船を運航する能力を大幅に向上させる大規模な海上法

執行戦力近代化プログラムに取り組んできた。近海におけるグレーゾーン海上作戦の重要な構成部隊である中国海警局は、グレー・ハルの戦闘艦艇を直接使用することなく、地域の海上事態に対する北京の影響力を増大させ、軍事エスカレーションへのリスクを低減しつつその能力を示すことにより、中国海軍をより遠方の海軍任務に集中させることを可能とした。

この増強により、北京は強力な「第二の海軍」を生み出したのである<sup>2</sup>。今日、中国は世界最大の海軍であるだけでなく、他を寄せ付けない世界最大の海上法執行船隊も保有している。本章では、海上法執行船隊の中では最近、中国海警局という名称で最近設立され、国家海洋局、漁業局／中国漁政、海上税関（旧海関総署）、および公安部／人民武装警察海警を下位組織に持つ組織について考察する。他の2つの中国の主要海軍機関である中国海事局と中国救助局は、中国海警局とは関係がない（したがって、本文または図表7-1の全体数には含まれない）。2017年の時点で、1万7000人を超える中国海警局職員<sup>3</sup>は、近海に限定された1050隻以上の船舶に加えて、外洋行動可能な500トン以上の225隻、合わせて少なくとも1275隻に乗り組んでおり、地域近隣諸国のすべての合計より大きい<sup>4</sup>。満載で1万トン以上の2隻のZhaonou級の巡視船は世界最大の巡視船である。

質的改善という点では、中国は今ではほとんどすべての旧式で能力の低い大型巡視船を入れ替えた。これは、米国や日本の沿岸警備隊を精査することから得た信頼性のある教訓を適用するとともに、中国海警局がより長期間にわたる外洋での作戦から得られた多くの教訓を活かしている。その結果、新造船には、ヘリコプター、迎撃艇、デッキガン、大容量高圧放水砲、および抗堪性向上などの特徴が含まれる。

ほとんどの新しく建造された中国海警局船はヘリコプター甲板を有し、そのいくつかは格納庫がある（ただし、中国海警局はヘリコプターをほとんど保有していない）。多くの新しい中国海警局船はスターン

デッキ（船尾楼甲板）に迅速に約10メートルの高速迎撃艇を発進させることができるポートランプを装備し、それによって漁船または他の船への近接、乗り込み、搜索および押収など法執行能力を向上させている。多くの新しい船は30ミリの砲を搭載しており、いくつかの大型船は76ミリの主砲を搭載している。ごく最近建造された中国海警局船は、現在その上部構造物の上に高出力の放水砲を装備している。2014年の中国海洋石油981石油リグ事件では、それがベトナム船の船橋構造物の装備を損傷させ、排気煙突に放水してその有効性を実証した<sup>5</sup>。インターネットの写真によると、過去5年以内に建造された多くの中国海警局船が中国海軍艦船や米国海軍のリンク11と同様のデータリンクアンテナ（HN-900など）を装備していることがわかる。古い中国海警局船は現在、これを追加装備中である。

中国の民間造船業のペースはゆっくりではあるが、2020年までに中国海警局は260隻の船舶が外洋で運用できるようになると見込まれる。多くの船舶が世界のどこでも運用できると見られている。小型船舶の数が大幅に変わることはないと思われるが、中国海警局がさらに近い沿岸海域に運用を限定した、より小型の1050隻を保有しており、合計で1300隻以上になるであろう。2005年から2020年にかけて、外洋で活動可能な200隻以上の追加船舶を含めて15年間で400隻の純増となり、後者のカテゴリでは350パーセントの増加となる。図表7-1が示すように、もつとも重要な外洋航海ができる巡視船（2500トン以上）の部隊レベルが2017年以降著しく増加していることよって、すべてのタイプの中国海警局船舶が増加している。

本章では中国の海上法執行作戦の動機となる論理的根拠、ドクトリン、および統率に関するこれまでの議論に基づいて、それらを実行するために使用する船舶、全体的兵力組成、その能力、動向および影響を評価する。我々は任務群ごとに組織されたハードウェア中心の観点から中国の海上法執行船を幅広く調査

する。このアプローチを選択した理由は、統率、統制、および組織が大幅に変化したとしても、船舶自体は個別のま

時間の増加
7
5
0
350%
10
100
100

ている。  
いい。

議論に基づいて、それらを実行するために使用する船舶、全体的兵力組成、その能力、動向および影響を評価する。我々は任務群ごとに組織されたハードウェア中心の観点から中国の海上法執行船を幅広く調査

する。このアプローチを選択した理由は、統率、統制、および組織が大幅に変化したとしても、船舶自体は個別のままであり、容易に識別されるためである。これは近年、中国の海上法執行組織が大幅に再構成され（また改革が進行中であり）、船舶がその組織間で移籍（また中国海軍から編入）されたとしても、またグレーゾーンとの関係においても同様のことがいえるからである。過去10年間で、特定の海域において運用している中国の海上法執行アセットについて、複数の「初顔」が見られた。一般的な地域情勢と同様に、海上法執行船隊の運用は流動的である。すべての部庁（漁業局、税関、および他の機関を含む）から編入された船がグレーゾーン内の係争に参加あるいはその近傍にすることが確認されてきている。たとえば、海関総署の船はグレーゾーン作戦に多くは参加していないが、海洋石油981石油リグの作戦の写真には海関総署の哨戒船が写っている。中国海事局や中国救助局のような中国の海上における人命安全（SOLAS）の民間組織は、一般的にはグレーゾーン作戦には参加しないが、発生する可能性のある安全上または汚染管理に関する懸念も軽減するために、場

図表 7-1 中国海警局の兵力規模 2005-2020 年

兵力規模 (タイプ、排水量 t)	2005	2010	2017	2020	15年間の 増加量
外洋巡視船 (2,500 ~ 10,000)	3	5	55	60	57
地域巡視船 (1,000 ~ 2,499)	25	30	70	80	55
地域巡視船 (500 ~ 999)	30	65	100	120	90
沖合航海可能船舶小計	58	100	225	260	202 (350%)
沿岸巡視船 (100 ~ 499)	350	400	450	450	100
内海巡視船 (<100) *	500+	500+	600+	600+	約 100
全中国海警局合計	900+	1,000+	1,275+	1,300+	約 400

\*少なくとも1つ（おそらくすべて）の中国沖合の島に40トン的高速艇が駐留されている。南シナ海の係争地域で活動可能な前進基地においては、大きさは従前より重要ではない。

合によつては近傍で行動することがある。

しかし、これらの政府機関は実際に外国軍に対抗する作戦に関与しているとは考えられない。さらに、すべての中国海警局船がグレーゾーン作戦に関連するわけではない。これは主観的な表現ではあるが、そのいくつかは小さすぎて外航船には見えないものもある。たとえば、係争海域で作戦している多くの船は500トン未満であり、この点に関して実質的な大きさのカットオフはない。逆に、中国海警局以外の船にも権益擁護ないしグレーゾーン任務に適用するものがある。2013年の中国海警局の再編では、国レベルのアセットだけが組み込まれ、省、県、市、または直轄市の海上法執行船は含まれなかった。たとえば、偏在するZhangjiao級小型巡視船は、実際には中国海警局の一部ではなく、むしろ省レベルの漁業執行の一部である。中国海監には省レベルの巡視船もあり、どこに従属するかによつて権益擁護への関与は異なるのである。

### 基盤

中国の海上法執行近代化プログラムは、3つの主要なフェーズで進行しており、後半の2つは重複している。フェーズ1(2000年～2010年)は、穏当な2つの任務すなわち調査研究と巡視船に焦点を当てていた。これらは比較的小型(ほとんどが1000～1750トンで、数隻のより大型の船を含む)なもので、一般的には武装していない。ヘリコプター関連装備があるものはほんの数隻である。フェーズ2(2010～2017年)では、数十隻の新しい目的仕様の外洋巡視船が建造された。これらの船はフェーズ1の船と比較してはるかに大型(満載排水量3000～1万トン)で、前述の古い船よりかなり高い

能力を有する。フェーズ3は、一般的に沿岸および近海において行動するための小型および中型の巡視船と哨戒戦闘艦艇で構成され、大型船は限定された数だけが建造された。

（2010～2017年）では、数十隻の新しい目的仕様の外洋巡視船が建造された。これらの船はフェーズ1の船と比較してはるかに大型（満載排水量3000～1万トン）で、前述の古い船よりもかなり高い

能力を有する。フェーズ3は、一般的に沿岸および近海において行動するための小型および中型の巡視船と哨戒戦闘艦艇で構成され、大型船は限定された数だけが建造された。

2013年、中国は5つの主要な海上法執行組織（五龍）のうち4つの組織を統合し、中国海事局だけが独立したままだった。過去10年間で20を超える海軍および民間造船所が中国海警局の船舶を建造してきた。強力な民間造船所によって間接費が削減されるため、巡視船の建造は安価で効率的に行われている。民生品の推進装置と電子機器を使用し、また複雑な戦闘システムがなく、複数の艦船を同時建造して、迅速な組み立てを容易としている。契約および詳細報道によれば、一般的な総建造期間（開始から就役まで）は、大型巡視船（WPS、1000トン以上）で12～18ヶ月、小型巡視船または哨戒戦闘艦艇（1000トン未満）で9～12ヶ月である。

中国は1999年までに海上法執行組織の拡大と近代化を開始するという国家レベルの決定を行った<sup>8</sup>。船舶建造予算の大部分はそれまで中国の海洋権益の主張と外洋における法執行を実施する責任を有する中国海監組織に充当されてきた<sup>9</sup>。世紀の変わり目以前は、中国海監部隊は1970年代に哨戒および調査研究の二目的で建造された少数の船とそのほとんどを占める沿岸域での運用を目的とした比較的小さな船で構成されていた。いずれの船も法執行の役割に特化して設計されていないので、砲、ヘリコプター、高速搭載艇、放水銃、その他の海上法執行装備がなかった<sup>10</sup>。

当初、中国海監の船の近代化プログラムは、限定された調査研究や検査活動だけでなく、哨戒および監視任務を実施可能な数種類の大きさの2つの使用目的を有する船の獲得に焦点を当てていた。この最初の取得プログラムは2004年に本格的に開始され、2005年末までにほとんどの新しい船が進水、就役した。3隻のShuyou級1000トン巡視船（満載1428トン）、3隻のShuwu級1500トン巡視船

(満載1740トン)、および最初のShuda I級3000トン巡視船(満載4000トン)が中国海監に引き渡され、これらは3つの中国海監船隊(北、東、南)に比較的均等に分配された。初期における典型的な2つの使用目的を有する巡視船(WAGOR)の3つのクラスすべてに水路調査および海洋調査装置を運用することができるよう船尾にAフレームクレーンが取り付けられたが、これまでそのような役割を果たすことは見られたことはほとんどない。注目すべきことは、Shuda I級がヘリコプター発着甲板と格納庫を装備した最初のクラスであり、中国海監がヘリコプターの支援を必要とする外洋における任務を遂行することを意図していたことを示すものである。しかし、国家海洋局や中国海監が言う科学的な任務を第一の任務とする新造船はいずれも恒久的な武器を装備していない<sup>12</sup>。中国海監の船舶建造の中心となったのは2010年に始まった36隻建造計画だった。これらの船は省および直轄市の海上法執行組織に編入され、その排水量は、600〜1500トンであった。

歴史的には外洋では限定的な任務しか与えられず、また限られた能力しか持っていなかった中国の他の海上法執行機関も外洋で行動することができるよう船を取得し始めた。2007年までに、人民武装警察海警は最初の大型巡視船、Haixun II級(Zhong Guo Hai Jing 1001 (現在はHai Jing 31101))を取得した。歴史的に人民武装警察海警は、主たる任務である国境防衛、密輸防止および入国管理の責任(領域の安全保障)を遂行するため、小型高速で重武装の巡視船だけを運航していた。Haixun II級は37ミリの主砲とヘリコプター甲板を装備していた。その排水量はほとんどの人民武装警察海警の巡視船の4倍以上であり、制約を設けた初期の作戦でも人民武装警察海警の大型船の操船能力の低さを示している。ほとんどの人民武装警察巡視船の乗組員は、海上勤務の経歴を持つ者ではなく陸上部隊から派遣された者であった。初期においてはほとんどの場合、Haixun II級は沿岸水域を超えることはめったになかった。これは人民武装警察海警

の儀礼的な地位にあるプラットフォームと見られていたが、近年は中国海警局の指揮下で、より積極的に外洋の任務を果たすようになってきた。

設けた初期の作戦でも人民武装警察海警の大型船の操船能力の低さを示している。ほとんどの人民武装警察巡視船の乗組員は、海上勤務の経歴を持つ者ではなく陸上部隊から派遣された者であった。初期においてはほとんどの場合、Haijun II級は沿岸水域を超えることはめつたになかった。これは人民武装警察海警

の儀礼的な地位にあるプラットフォームと見られていたが、近年は中国海警局の指揮下で、より積極的に外洋の任務を果たすようになってきた。

以前は資源保護と漁業の執行に使用される数十隻の老朽化した外洋巡視船を運用していた漁業局は、2000年代初頭に独自の小規模な近代化計画を開始した。その多くは新しい沿岸巡視船クラスを導入することであった。2010年に進水した当時印象的であったZhongyang級大型巡視船Zhong Guo Yu Zheng 310(後に三沙市当局に譲渡)の建造で最高潮に達した。他の海上法執行機関が最近取得したのと同様に、漁業局はWPS 310にヘリコプター甲板と格納庫を装備することを選択したが、実際のところ、漁業局はヘリコプターを保有していなかった。当初、漁業局はWPS 310を外洋哨戒に広く使用し、その後、現在漁業局の中核を形成している少なくとも1つの後続クラス概念の実証となった。

4番目の主要な海上法執行組織である海関総署は、2000年代初頭に沿岸の対密輸作戦のための30隻以上の新しい200トンの巡視船(Haijun III級)の建造を終えたところであり、2003年頃以降に推進する重要な船舶建造計画はなかった。

中国海事局は、ブイの保守整備、環境浄化、捜索救助、軽微な曳航と救難、港湾運営等、その専門任務を遂行するための各種船舶を取得しながら、独自の建造計画を継続してきた。また政府は、外洋での海上災害や緊急事態に対応し、他の太平洋諸国の主要な沿岸警備隊と共同できる数隻の大型巡視船を取得した。五龍の中で、中国海事局が最初に大洋横断運用が可能な専用大型巡視船を手に入れた。2隻のShujian級がハワイや他の遠方海域における合同演習に参加し、後にはインド洋で消息を絶ったマレーシア航空370便の捜索を含む長期任務に参加している。中国海事局は中国の他の海上法執行機関とは異なり、米国の沿岸警備隊、日本の海上保安庁およびその他の地域の海上法執行組織と常に緊密な協力関係を維持

し、領土紛争に巻き込まれないよう努めている<sup>13</sup>。他の龍と異なり、中国海事局は歴史的にその資金の大部分を商業輸送のための港湾料金の徴収から得ており、中華人民共和国指導部や財政部予算部門からある程度の予算の自主性を認められている<sup>14</sup>。

## 進化——中国の新たな中国海警局

前述のとおり、2013年にはこれらの組織のうち4つの機関が新しい中国海警局に統合された（少なくとも書類上は）。この改革は個々の機関が数年間にわたり予測していたものであり、そのいくつかはおそらく新組織の指揮系統内で優位性を主張しようとして、2010年以降、積極的な建造計画を開始した<sup>15</sup>。各組織は明らかに独自の船舶の設計に焦点を当てており、ほとんど協力は見られなかった（特に漁業局と中国海監）。

中国海警局への統合直前に、中国海監部隊は最近中国海軍部隊から除籍された補助艦艇を数隻取得した。中国が南および東シナ海でより積極的に海洋拡張を追求し始めたため、これらの移籍はその哨戒能力のギャップを埋めるようとしたものであろう。それらは改造されたケーブル敷設艦、機雷敷設艦、および3隻の大型海難救助タグを含む、古い中国海軍の補助艦艇だけではなく、3隻の旧情報収集船（碎氷船 Yanbing 級旧 AGI-723 号、Xiang Yang Hong 9 級旧 AGI-852 号、Huiyang 級旧 AGI-411 号）を含んでいた。まもなく中国海警局となる中国海監の船舶建造計画が進行する中でも、それらの旧中国海軍艦艇はすぐに（ほとんどの砲と電子機器が撤去された状態で）運用を開始した<sup>16</sup>。

近年の中国海警局近代化の顕著な特徴の1つは、五龍時代から始められた調達計画の成果であるところ

の、特定任務のための船舶の明確な専門化である<sup>17</sup>。さらに、中国の巨大な造船産業（おそらく建造予算）は中国海警局が、より柔軟ではあるが特定の能力の低い多用途船を建造するのではなく、特定の要求に向けたさまざまな設計に集中することができた。しかし、これらすべてが船舶より任務、寺ニホヨコ

近年の中国海警局近代化の顕著な特徴の1つは、五龍時代から始められた調達計画の成果であるところ

の、特定任務のための船舶の明確な専門化である<sup>17</sup>。さらに、中国の巨大な造船産業（おそらく建造予算）は中国海警局が、より柔軟ではあるが特定の能力の低い多用用途船を建造するのではなく、特定の要求に向けたさまざまな設計に集中することができた。しかし、これらすべての船舶は別の任務、特に係争中の南シナ海および東シナ海における主権の増進に関する任務を果たすための高い能力を維持したままである。

中国海警局の近代化の2つ目の特徴は、革新的な設計変更の優先である。2010年以来、さまざまな初期設計は、頻繁に構成と機能の修正が加えられてきた。たとえば、中国はほぼ10年前に始まった計画以来地域の1000トン巡視船の設計に連続して4つのバリエーションを加えた。オリジナルの変種（Shuyou級）は本質的には中国海監用の調査研究と哨戒の2つの使用目的の船だった。それは調査活動に対応するため、扇状船尾にAフレームとクレーンが装備されていた。設計がShuke II/III級に進むにつれて、船はクレーンとAフレームを取り除かれ、すなわち小型高速船のダビット（吊り柱）が追加された法執行の役割に向けて進化し、開放水域での運用改善のために船体と上部構造が改良された。

同様のアップグレードは他のクラスでも行われている。これらの改修は、他の近代的な海上法執行船（主に米国沿岸警備隊や日本の海上保安庁が運航するもの）を詳細に研究した成果および中国海監、漁業局、およびさらに外洋で行動する中国海警局の船舶から得た教訓によるものである。

### 海上税関と密輸防止

近年、海上関税を執行する中国海警局の部署は船舶取得に積極的であり、1980年代と1990年代に建造された小型巡視船の大部分を海上法執行と関税任務に特化した3つの新しいクラスの船舶に変更し

た（兵力組成については図表7-2参照）。新しきZhaogao級の巡視船は3隻が建造され、中国海警局は、はるか外洋の密輸業者を取り締まるような排他的経済水域（EEZ）巡視活動のための能力が追加された。1750トンの船の全長は308フィート、最大幅は39フィートである。最高速度は約20ノットを超える大部分の中国海警局巡視船とは異なり、Zhaogaoには4基の強力なディーゼルエンジンが搭載されており、最高速度は約30ノット、航続距離は15ノットで5000海里と推測される<sup>18</sup>。また、この船は航行中に高速搭載艇を迅速に揚げ降ろしできる2

図表 7-2 海上税関の兵力組成（抜粋）\*

級	数	艦番号	全長 (feet)	排水量 (t)	主砲 (mm)
Zhaogao 大型巡視船 (WPS)	3	(Hai Jing) 33103 (Zhejiang), 44104 (Guangdong), 46014 (Hainan)	308	1,750	30mm
Hutao I 哨戒戦闘 (WPG)	8+	(Hai Jing) 31101, 31103, 33104, 44105, 44106, 45103 +数隻	223	625	30mm
Hutao III (WPG)	2	44109, 44110	223	625	30mm
14.5mm Haihei 高速 対応巡視船 (WPC)	2	(Hai Guan) 905 + 1 隻	205	450	37mm
Haifeng WPC	5	(Hai Guan) 900-904	190	440	14.5mm
Hulai II WPC	25+	(Hai Jing) 33004, 35007, 44005, 44008, 44105-18, 44020, 44021, 45001, 45002, 46003+ 数隻	177	330	14.5mm
Hailin I WPC	25+	(Hai Jing) 44059, 44068, 44069, (Hai Guan) 853-880(お そらく新船あり)	170	230	23mm, 14.5mm
Hailin II WPC	10+	(Hai Jing) 35089, 33086, 31088, 21091 (Hai Guan) 881-90 (おそらく新船あり)	170	230	23mm
Type 611 WPC	~10	(Hai Jing) 33028 (Hai Guan) 823-30 (おそらく新船あり)	145	170	14.5mm
Haigao WPC	10+	(Hai Guan) (おそらく新船あり)	140	100	14.5mm

\* 中国の海上法執行機関は数百クラスの船を所有している。以後の表を管理しやすくするために、もっとも重要なクラスだけを含む。

基のダビットを装備している。さらにこの船は30ミリ自動砲とヘリコプター甲板を装備している。

第二の特殊クラスであるType 611巡視船は、中国のEEZの最遠部までの警戒を延長するように設計されている。

た、この船は航行中に高速搭載艇を迅速に揚げ降ろしできる2

Zhaogao (WPS)	
Hutao I (WPG)	呼
Hutao III (14.5mmHa)	対
Haifeng	汎
Hulai II	汎
Hailin I	汎
Hailin II	汎
Type 611 W	
Haigao	汎

\*中国の海上に、もっとも

基のダビットを装備している。さらにこの船は30ミリ自動砲とヘリコプター甲板を装備している。

第二の特殊クラスであるHutao I 巡視船は、中国のEEZの最遠部までの哨戒を拡張するように設計されている。Zhaogaoと同様に、Hutao Iには4基のディーゼルエンジンが装備されており、4軸の推進装置で最高速度30ノット以上、航続距離は15ノットで5000海里である。625トンのHutao Iは全長223フィート、最大幅28・5フィートであり、航行中に高速搭載艇を迅速に揚げ降ろしできる2基のダビットを装備し、30ミリ自動砲と小型銃2門および放水砲で武装している。少なくとも8隻のHutao I級がすでに就役しており、追加の船が建造され続けている。中国は2018年に中国海警局のために改良された2隻のHutao III級に着手した(Hutao IIは輸出用の設計であった)。

第三のクラスであるHulai IIの外観は、十数か国の海軍と沿岸警備隊で運用され、世界中に遍在するオランダのDamen Stan Patrol 4607に似ている。しかし、Hulai IIは3基目のエンジンを追加し、中国のEEZ内の任務、特に海上密輸阻止のため、最高速度30ノット以上、航続距離は18ノットで1200海里となっている。330トンのHulai IIは、全長177フィート、最大幅24フィートで、航行中、迅速に高速搭載艇を発進させることができる船尾ランプシステムも装備している。それは小型武器と煙弾発射装置、大容量の放水砲、また強化された船体摩擦レールを装備している。近年、Hutao I (Hutao II) とHulai IIの両設計のバリエーションが輸出顧客に販売されており(後者はパキスタン)、激しい国際巡視船市場の中で、競争力があり、効果的な設計であることを示している。過去数年で20数隻のHulai IIが建造され、1980年代と1990年代に建造された中国海警局の古い611型とHailin I/II級の巡視船の後継として合計30隻ほどが建造されるであろう。

## 長距離にわたる漁業監督

中国の領土主張を促進するための漁業監督と資源保護は、常に中国の海事機関、特に漁業局の主たる任務であった。中国海警局への局の統合は、この組織の予算状況を改善しようである。歴史的に見て、古くは能力の低い巡視船の寄せ集めと改造漁船の寄せ集めに頼って任務を遂行してきた。しかし過去10年間で、中国海警局の漁業執行部門は、全船隊を交換し近代化するための積極的なプログラムに着手した（兵力組成については図表7-3参照）。

長距離範囲における漁業監督に関しても注目しているのは、2014年から2016年にかけて12隻就役したZhaoyus級の大型巡視船である。全長360フィート、最大幅46フィートの3500トンのZhaoyus級は、荒れた海での長距離航行のために最適化した伝統的な戦闘船形とされ、中国の係争海域の外縁での作戦を目的として、理論上はどこでも航海が可能である。このクラスの航続距離は14ノットで7500海里、推定最高速度は25ノットである。これは近年、三沙市に転籍となった漁業局の旧旗艦であるZhongyang級巡視船7隻だけ建造されたZhong Guo Yu Zheng 310の教訓に基づいて、設計変更がなされたものである。漁業局は船の設計と安定性に関する欠陥を特定し、上部構造を1デッキ低くし（横方向の安定性確保のため）、ヘリコプター甲板の下から高速搭載艇と搭乗用ボートを発進させるためのポートランプを船尾に追加装備してZhaoyuの後継艦を改善した。さらに追加装備には、ヘリコプター格納庫、30ミリ砲1基および12・7ミリ自動機関銃4基も含まれている。<sup>20</sup>

このカテゴリで新しいのは、Zhaochang級巡視船で、新しいタンブルホームの船体設計と30ミリ砲を備えた長距離範囲の漁業執行を目的として作られた。<sup>21</sup> その排水量3500トンの船は、全長360フィート、

最大幅49フィートで、30ミリ砲を装備している。ディーゼル発電機を装備した中国海警局の最初の電気推進の概念実証で、これまでに唯一建造されたZhaochanoは、最高速度は20ノットしか出なすが、航程は

このカテゴリーで新しいのは、Zhaochang巡視船で、新しいタンブルホームの船体設計と30ミリ砲を備えた長距離範囲の漁業執行を目的として作られた<sup>21</sup>。その排水量3500トンの船は、全長360フィート、

最大幅49フィートで、30ミリ砲を装備している。ディーゼル発電機を装備した中国海警局の最初の電気推進の概念実証で、これまでに唯一建造されたZhaochangは、最高速力は20ノットしか出ないが、航続距離は15ノットで1万海里と長々。

地域の漁業監督、特にベトナムに隣接する漁業海域（たとえば、トンキン湾）、日本および北朝鮮との係争中の漁業海域における作戦のために、中国海警局は15隻のより小型の巡視船、Zhaomin級を建造した。このクラスの全長は269フィート、最大幅39フィート、排水量1764トンで、航続距離は13ノットで7500海里、耐氷性強化船体（北部渤海湾での作戦のため）を採用し、中距離哨戒に最適化されている。30ミリ砲、2隻の小型高速搭載艇を装備し、故障した漁船を支援するための中程度の曳航能力を有する。

Zhaominは地域の沿岸部に焦点を当てているため、ヘリコプター関連装備を保有していない。バルバスバウ（球状船首）を有し、比較的幅広で低い船体の重要な設計要素は、他の中国海警局船で優先される高速性と操縦性ではなく、荒天における耐航性と効率性であることを示している（通常低速の漁船は、Zhaominのように最高速力が20ノットの巡視船からでさえも逃げられない）。

省レベルの漁業法執行組織も大規模な近代化プログラムを実施している。1990年代後半、中国の沿岸における漁業執行は、主に改造された漁船とさまざまな古い巡視船によって行われていた。しかし、過去10年間で、地元部隊はより近傍で短期間の執行任務のために、約12の異なる35〜60メートルの沿岸巡視船と戦闘艦を設計した。もっとも注目すべきは全長50メートル、排水量450トンのZhongtao級で、2000年代初頭から一定の量産を続けており、50隻以上が多数の異なる造船所で建造されている。すべての船は、船体と基本的な上部構造設計を共有しているが、作戦海域や一般的な気象状況によって、上部構造物の大きさが明確に異なっている。過激な漁民が執行からの防御として衝突や体当たりを行う可

図表 7-3 中国漁政の兵力組成 (抜粋)

級	数	艦番号	全長 (feet)	排水量 (ton)	主砲 (mm)
Zhaochang 大型巡視船 (WPS)	1	(Hai Jing) 2301	360	3,500	30mm
Zhaoyu WPS	12	(Hai Jing) 1301-4, 2302-4, 3301-5, 46305	360	3,500	30mm
Zhaotim WPS	15	(Hai Jing) 1102-4, 3104-6, 21115, 31115, 33115, 35115, 37115, 46115, (Yu Zheng) 45005, 45013, 45036	269	1,764	30mm
Dalang I WPS (元中国 海軍)	1	(Hai Jing) 3411	370	4,500	30mm
Zhongeng WPS	10+	(Yu Zheng) 13001, 32501, 33001, 33006, 35001, 37008, 44061, 45001, 46012+ 数隻	180	~1,000	14.5mm
Zhongwen WPS	1	(Yu Zheng) 21103	195	850	不明
Zhongke WPS	6+	(Yu Zheng) 21101, 21111, 33018, 33205, 27061, 45002 おそらく+ 数隻	180	~ 500	不明
Zhonem WPG	1	(Yu Zheng) 3736	190	550	14.5mm
Zhontao 高速 巡視船 (WPC)	50+	(Yu Zheng) 12001, 21006, 21009, 21137, 21202, 21401, 32511, 32521, 32528, 32543, 32545, 33012, 33015-19, 33023, 33025, 33129, 33316, 33416, 33147, 37001, 37005, 37015, 37529, 37601, 45012, 46013 + 数隻	160 ~ 170	300 ~ 400	14.5mm
Zhongsui WPC*	6	(Yu Zheng) 35119, 44601-3, 44606, 45003	165	~ 350	14.5mm
Duancude WPC*	10+	(Yu Zheng) 21402, 31006, 37057, 37206, 37518+ 数隻	130	~ 200	なし

mm  
し  
向にな  
し

能であ

性能がある作戦海域(たとえばトンキン湾)では、Zhongtaoは  
船本キールを補強した。毎7荒れる作戦毎或(こ)に、より良ノト

Nanhua TypeA WPC*	~ 10	(Yu Zheng) 44025, 44081, 44121, 44168; (Hai Jian) 9040, 9060 (追加ユニットが中国海事局および人民解放軍海上輸送艦隊 / MTSにより運用)	110	150	23mm
Zhongbong WPC*	10+	(Yu Zheng) 13203, 13301, 32511, 37078, 37163, 37606, 37607	100 ~ 120	~ 150	なし
トロール漁業哨戒*	30+	(Yu Zheng) 種々の設計と数	100 ~ 120	不定 (250 ~ 600)	一般的になし
Red Arrow 大型哨戒ボート*	100+	Hで終わる4桁数	40	15	なし

\*これらのクラスは、排水量は比較的少さいが、南シナ海の中国の占領地物に展開可能であるため、活用される可能性が十分ある

性能がある作戦海域（たとえばトンキン湾）では、Zhongraoは船体キールを補強した。海の荒れる作戦海域（たとえば東シナ海）では、Zhongraoユニットは船首ブルワーク（上甲板外舷に沿って立ち上げた波の侵入を防ぐ囲い）を上げた可能性がある。黄海や渤海湾に配備されている船の一部は、耐氷性強化船首としているものがある。初期に建造された船はダビットで小型高速搭載艇を発進させるが、後期建造の船は船尾扉や迅速に発進できるランプを装備している。Zhongraoは今でも中国海警局が新しい船や巡視船を設計し、建造する際に、作戦運用を学び、教訓を活かす例証となっている。

### 外洋監視、哨戒、および主権の執行

中国海警局は全体として沖合の監視と哨戒（特に大型巡視船の場合）、および領海の防衛と執行という一般的な役割を担っているが、歴史的にこれらの役割は主として、これまで検討されなかった2つの龍、すなわち中国海監と人民武装警察海警（中国辺防海警）が担ってきた。中国海監は主に外洋での任務を担当し、その大部分はより長期作戦が可能で大型船で構成され

級
Zhaochang 大型巡視船 (WPS)
Zhaoyu WPS
Zhaotim WPS
Dalang I WPS (元中国海軍)
Zhongeng WPS
Zhongwen WPS
Zhongke WPS
Zhonem WPG
Zhontao 高速巡視船 (WPC)
Zhongsui WPC*
Duancude WPC*



図表 7-4 外洋監視、哨戒、および主権執行の兵力組成 (抜粋)

級	数	艦番号	全長 (feet)	排水量 (t)	主砲 (mm)
Zhaotou 大型 巡視船 (WPS)	2	(Hai Jing) 2901, 3901	541	10,000+	76mm, 30mm
Zhaoduan WPS	6	(Hai Jing) 31301, 31302, 31303, 46301, 46302, 46303	450	4,000+	30mm
Zhaojun WPS	9	(Hai Jing) 21111, 33111, 35111, 37111, 44111, 45111, 46111, 46112, 46113	328	2,700	76mm
Shuoshi II WPS	4	(Hai Jing) 1501, 2501, 2502, 3501	426	5,800	76mm (推 定)
Zhaolai WPS	4	(Hai Jing) 1401, 2401, 3401, 3402	325	4,800	76mm (推 定)
Shucha II WPS	10	(Hai Jing) 1305-7, 2305-8, 3306-8	321	4,000	30mm
Hai Yan WP (S 元 PLAN)	1	(Hai Jing) 3368	345	3,325	なし
Kanjie WPG (元 PLAN)	1	(Hai Jing) 2506	425	5,830	撤去
Type 053 Jiangwei I WFF (元 PLAN)	3	(Hai Jing) 31239 [ 元 PLAN FF539 ], 31240 [ 元 PLAN FF540 ], 31241 [ 元 PLAN FF541 ]	367	2,000	37mm
Shusheng WPS	5	(Hai Jing) 1010, 2115, 3015, 7008, 9010	290	1,750	14.5mm (推定)
Shuke I / II / III WPS	20	I : (Hai Jing) 1127 II : (Hai Jing) 1123, 1126, 2166, 3175 III : (Hai Jing) 2112, 2113, 3111, 3112, 3113; (Hai Jian) 1002, 1013, 2032, 2168, 4001, 4002, 4072; (Yu Zheng) 46016	245 ~ 265	1,450	なし
Shuyou WPS	3	(Hai Jing) 1117, 2146, 3171	242	1,000	なし
Shuwu WPS	3	(Hai Jing) 1115, 2151, 3184	288	1,750	なし
Tuzhong WPS (元 PLAN)	3	(Hai Jing) 1310, 2337, 3367	278	3,300	なし
Haixun II WPS	1	(Hai Jing) 31101	311	1,900	
Haijian WAGOR/WPS	4	(Hai Jian) 1118, 2149, 3172, 3174	230	1,350	なし
Shuzao II / III WPG	15	II : (Hai Jian) 9012 III : (Hai Jian) 1015, 1116, 1117, 2030, 3011, 3012, 4067, 4073, 5030, 7018, 7028, 7038, 8003, 8027	215	600	12.7mm
Type 618B- II WPG	30+	(Hai Jing) 015, 12001, 13101, 13102, 21102, 21103, 21104, 31102, 32102, 33101, 33102, 35101, 35102, 35103, 37101, 37102, 44101, 44103, 45101, 45102, 46101, 46102, 46105, 46106 + 数隻	201-208	650	25mm または 30mm

\*これは公安海警学院所属の訓練船であるが、完全な戦闘能力を有する。

示唆するものである。その根拠は推測に過ぎないが、Zhaotou の設計は、ヘリコプターを搭載し、76ミリの主砲を装備して、世界中のどこでも最大の耐洋性で作戦できる大型プラットフォームを中国海警局に提供することになる。ただし、その停泊要件あるいは、より小型の中国海警局巡視船と比較して能力に明確な

利点がなく、運用コストが高いため、このクラスを追加して建造することはないのであろう。<sup>23</sup>

統合以来、中国海警局の大型巡視船の中でもっとも優れた3つの新しいクラスはShucha II、Shuoshi II、およびZhaolaiであり、これらはすべて中国海警局改革以前に運用していた初期のクラスに基づいている。現在10隻が稼働しているShucha IIは、2000年代初頭に中国海監用に最初に建造されたShucha Iの設計に基づいている。Shucha Iが建造されたときは、中国海監が保有するもっとも近代的な船であり、長距離耐洋性と海洋学研究を実施するための重要な能力を兼ね備えていた。Shucha IIはこの設計を改良し、調査装置と船尾Aフレームを撤去し、広いヘリコプター甲板と小型搭載艇の発進装置に置き換えることにより、その任務を明確に哨戒活動に指向した。Shucha IIは、その前身と同様に旋回可能な電動推進器ポッドを使用したハイブリッドディーゼル電気駆動系を搭載しており、巡航効率とともに優れた操縦性と航続距離を有する。さらに、Shucha IIには、必要に応じて今後30ミリ主砲を設置できる台座も確保されている。<sup>24</sup>

間違いなく中国海警局の中でもっとも高性能で汎用性の高いShuoshi II級の4隻は、数年前に建造された中国海事局の旗船であるHai Xun Iに基づいている。全長130メートル(426フィート)、最大幅16メートル(52フィート)の船舶は、排水量が5800トンで、米国沿岸警備隊のレジエンド級の国家安全保障用巡視船と全体的なサイズおよび構成が似ている。Shuoshi IIはどのような気象条件下でも開放外洋における長距離運用が可能となるよう設計されている。それは大容量の放水砲とヘリコプターの着陸甲板および格納庫を装備しており、そして76ミリ砲の将来装備に対応できる設計となっている。中国海警局が運航する他の多くの大型専用巡視船とは異なり、Shuoshi IIの後部は「作業船尾」とされており、ある程度の曳航作業だけではなく、軽度の救助やサルベージが可能であることから、このクラスには法執行に限定されない広範囲にわたる能力が備わっている。追加の船が建造されるかは不明であるが、世界でもっとも能力の

高い多用途の海上法執行船の1つである。<sup>25</sup>

作業だけではなく、軽度の救助やサルベージが可能であることから、このクラスには法執行に限定されない広範囲にわたる能力が備わっている。追加の船が建造されるかは不明であるが、世界でもっとも能力の

高い多用途の海上法執行船の1つである。<sup>25</sup>

Zhaolai級巡視船は、尖閣諸島と南シナ海で日本とベトナムに迅速に対処する能力を提供することを目的とした汎用設計である可能性がある。Zhaolaiは中国救助局Harjun II級のサルベージおよび救助船にほぼ基づいており、頑丈な船体、強力なエンジン、そして最悪の気象、海象下でも運用できる能力を備えている。4800トンのZhaolaiの設計は、中国救助局モデルに見られる大型のサルベージクレーンが撤去され、小型の迎撃艇用のダビットが追加された。また中国海警局の4隻のZhaolaiにはヘリコプターの着陸甲板を装備され、中国海警局が後日装備する際のために、前部に76ミリ主砲のマウントを確保している。中国海警局船の中でも、Zhaolaiは重量の大きい他船の曳航や搭載に最適に作られており、その高い位置に装備された大型放水砲は消火作業だけではなく、近距離において小型外国船の意図を挫くための放水作戦にも使用できる。Zhaolaiは当初、中国海警局の機能の不足に対する一時しのぎの既製品による解決策であり、特化して設計されたものに劣るため、追加のユニットが建造されることはないであろう。<sup>26</sup>

人民武装警察海警は、そのほとんどがもとと人民武装警察の陸上部隊であったため、その構成員の海技技能が定かではなく、主に沿岸部隊と河川部隊だった。<sup>27</sup>現在中国海警局は当時の人民武装警察海警によって、明らかに中国海警局統合の前に発注された2つの高性能なタイプから相当な数の巡視船を建造している。これらのクラスのうち大きい方のZhaodian (818型)は、建造中の中国海警局の最新かつ最速のものである。それは中国海軍の054型Jiangkai II級の誘導ミサイルフリゲートをベースとするものであり、ほぼ同一の船体とおそらく同じ強力な2+2 CODAD (ディーゼルとディーゼルの組み合わせ)の推進装置を使用しているが、その上部構造物は重要な変更がなされている。このJiangkai IIの設計は、アデン湾における中国海軍の海賊対処作戦で高い信頼性を証明した。Zhaodianの全体的な構成はメインデッ

キの上のJiangkai IIと似ているが、上部構造デッキの追加と他のいくつかのトップサイドの変更がある。Zhaoduanは、Jiangkai IIの強力な戦闘システムを搭載しておらず、HQ-16垂直発射式対空ミサイルシステム、近接武器システム、および長距離の軍用電子機器を撤去している。<sup>28</sup>しかしZhaoduanは、Jiangkai IIと同じ76ミリ主砲を装備している。2つの30ミリ砲とともに、中国海警局のもっとも重武装船となっている。そのヘリコプター着陸エリアと格納庫はZ-9、AW109、またはEC-135ヘリコプターを収容する。Jiangkai IIの推進システムは、4000トン以上の排水量を減らすことによって、Zhaoduanは最高30ノット以上となっている可能性が高く、15ノットで1万海里の航続距離となり、世界最速の大型巡視船となっている。これらの資質はZhaoduanを中国海警局の主力とするであろう。一部のメディア筋によると、このクラスの6隻が今日までに進水し、追加のユニットが発注されている。<sup>29</sup>

また、中国海警局はオリジナルのデザインと思われるものを使って、より小型の718型Zhaojun級の巡視船を建造している。その排水量は2700トン、全長328フィート、最大幅43フィートである。最高速度は25ノット、航続距離は6500海里と推定される。これらの巡視船のうち少なくとも9隻が現在までに進水しており、いくつかはすでに就役している。追加の船も建造可能である。Zhaojunはヘリコプター甲板と小型搭載艇の発進装置を装備している。Zhaoduanと同様に、前部には76ミリ主砲が装備されている。<sup>30</sup>地域警備の任務のための外洋行動が可能で、2014年の海洋石油981石油リグの対立における618B-II型哨戒戦闘艦艇の成果は際立っていた。排水量650トン、全長208フィート、最大幅30フィートで、最高速度は約30ノット、航続距離2000海里の高出力機関を有するとともに、非常に機動性が優れている。中国海警局の25隻以上の船には、30ミリの主砲と大容量の放水砲が装備され、一部の船は船尾に高速搭載艇の発進装置を装備している。

これらの国境防衛の目的で建造した船の他に、中国海警局は3隻の元中国海軍Jiangkai II哨戒フリゲートを編入した。ミサイルとほとんどの海軍システムは撤去されたが、2基の37ミリ砲とヘリコプター格納庫

性が優れている。中国海警局の25隻以上の船には、30ミリの主砲と大容量の放水砲が装備され、一部の船は船尾に高速搭載艇の発進装置を装備している。

これらの国防衛の目的で建造した船の他に、中国海警局は3隻の元中国海軍Jiangwei II哨戒フリゲートを編入した。ミサイルとほとんどの海軍システムは撤去されたが、2基の37ミリ砲とヘリコプター格納庫は残された。わずか2000トン、全長367フィート、最大幅40・7フィートで、その最高速度は約30ノット、18ノットでの航続距離は4500海里である。

## 施設

多くのオープンソースの情報によって、近年、中国は数多くの海上法執行施設を、岸壁およびインフラを備えた少数の大規模拠点に統合していることが明らかになった。中国にある中国海警局海事施設の正確な数は明らかではないが、中国海警局には艦船や小型船を係留する施設が合計200ヶ所以上あると考えられている。<sup>31</sup>しかし、そのうち外洋作戦能力のある巡視船を収容することができるのは40ヶ所に満たない。残りは沿岸または地域の巡視船とボートの基地になっている。これらの小規模基地の多くは漁港と同じ場所またはその付近にあり、岸壁インフラが限定される漁業監視船の基地となっている。他の多くは、さらに小さな沿岸巡視船を受け入れ、基本的には小さな埠頭または棧橋に（あるとしても）1つの支援棟だけである。<sup>32</sup>

近年、すべての新造船を係留するためのきわめて大きな棧橋、兵舎、運動施設、場合によっては限定された船舶修理施設を含む実質的な陸上施設を含む、もっとも重要な中国海警局基地が大幅に拡大された。さらに、それぞれの地域の多くの小規模基地に替わって、いくつかの大規模な新しい中国海警局基地がゼ口から建築された。船の修理がますます重視されるようになったことから、発達した船隊の作戦上のニ-

ズを理解していることが見て取れ、また一方、保守整備をするために中国海軍に従属することを避けたいという願望も表れている。これらの取り組みの一環として、中国海警局は初の浮きドックを建造した。南シナ海を含むさまざまな場所に移動可能で、小型の巡視船に対応できる。

中国海警局改革は2013年に開始されたが、それぞれの施設はその組織の任務に基づいていくぶん分離されたままである。つまり、それまで漁業局の船を受け入れていた基地は引き続き漁業監督活動を行う船を受け入れている。重複している施設が将来廃止されるかどうかは不明である。<sup>33</sup>

## 中国海事局

2013年の中国海警局の統合には含まれていないが、中国海事局は独自の船隊と施設を備えた独立機関である。それは他の任務の中で、中国の港湾および商業海上交通の管理・警備、航海支援（ブイ、灯台など）、汚染防止、およびSOLASに関する責任を有する。中国海事局の行動範囲は主に中国の領海に限られるが、他の国の沿岸警備隊との共同演習や搜索救助活動（マレーシア航空の行方不明機など）に参加するために長期航海をする何隻かの大型巡視船も保有している。しかし、中国海事局船隊の大部分は、何百もの沿海巡視船、何千もの沿岸巡視船、そしてブイの手入れ、水路調査、汚染除去、その他の任務のために使用されるさまざまな特殊船で構成されている。<sup>34</sup>

中国海事局は法執行機関と見なされているが、通常、領土紛争（南シナ海、尖閣諸島など）、漁業監督、税関、およびその他の対犯罪活動には関与していない。米国、日本、および韓国の沿岸警備隊を含む地域の部隊との良好な協力関係を維持しており、しばしばこれらの部隊と共同で活動している。<sup>35</sup>

中国洋事局は法執行機関と見なされてくるが、通商、領土紛争（南シナ海、尖閣諸島など）、漁業監督、税関、およびその他の対犯罪活動には関与していない。米国、日本、および韓国の沿岸警備隊を含む地域の部隊との良好な協力関係を維持しており、しばしばこれらの部隊と共同で活動している。<sup>35</sup>

## 中国救助局

中国救助局は法執行機関ではないが、中国の海事分野で大きな存在感を示している政府主導の機関である。中国救助局は公的役割（人命救助の支援）と商業的役割の両方で活動しており、座礁船の曳航から沈没船の引き揚げ、商業用石油リグの輸送および設置に至るまでの契約事業を請け負っている。この商業的側面は、その利益から大きな独立予算を中国救助局に提供しており、その大部分は救助船、サルベージ船、重量輸送船、半潜水式船および大型クレーン船の巨大船隊のコンスタントな近代化に充てている。もともと目立つ中国救助局ユニットは30隻以上の近代的な救助およびサルベージ船であり、それらはほとんどの時間、船舶の交通量の多い海域や中国の港外の航路帯を巡回している。中国救助局にはいくつかの主要基地施設があり、いくつかは中国海警局または中国海事局の施設と同じ場所または近傍に位置しているが、一般的に中国海警局の部隊と作戦することや調整することはない。<sup>36</sup>中国救助局の大型船が係争海域の近傍にいることがあるが、一般的には他の組織の船（または外国船）が損傷した場合に救助するためだけに展開しており、執行または抑止活動にも関与しない。中国救助局は、その専門的かつ経験豊富な要員、近代的で高度な能力を備えた船隊、および海上紛争への直接的な関与がないため、国際的な海事コミュニティで高く評価されている。その船は世界中で輸送やその他の業務でしばしば契約されている。<sup>37</sup>

## 結論

中国は世界最大の沿岸警備隊を作ること、その海上能力を目覚しく向上させた。あらゆる規模の巡視船を建造するための巨大な能力、商業建造の利益からのコスト削減、およびほとんどのシステム（エンジンや電子機器を含む）の国内生産により、さまざまな任務と作戦海域に特化した膨大な数と種類の船を配備した。中国海警局の能力を強化したことで、中国海軍は海軍本来の役割にさらに集中することができるようになり、過去10年間で中国海軍はそれに応じて小型哨戒艦を減少させた。さらに、長距離運航が可能で世界で最大規模の作戦能力を持つ新しい中国海警局の船は、東アジアを超えた展開を可能にするであろう（海賊対処作戦や海上交通路の防衛など）。中国海警局の近代化と拡大は、中国の東シナ海と南シナ海におけるプレゼンスと影響力を高め、地域の国内外の法執行能力を維持することになった。

中国は、統合された中国海警局に主眼を置いて、海上法執行機関の各船隊を近代化し続けていくであろう。しかし、2010年から2017年にかけての主要な船舶建造計画の終了により、後方と作戦を合理化するために、クラスのバリエーションは少なくなり、将来、少数（おそらく3〜4）の主要クラスといくつかのマイナークラスによる構成へ焦点が絞られるであろう。サイズよりも、速力とその能力ギャップを埋めることを優先しようとしている。中国海警局は数値的には成長する可能性が高いが、過去10年間の成長率を繰り返すことはまずあり得ないであろう。その主たる理由は、中国が現在では旧式で能力の低い大型巡視船のほとんどを、新しいものに換えたことである。今後10年間で、中国は1990年代に主に建造され、運用寿命が終わりに近づいている小型船の船隊の大規模船隊へ交換を継続するために、より小型の沿岸巡視船と哨戒戦闘艦艇を優先するようになるであろう。中国海警局は間違いなく、まだ残る主要な

弱点分野の是正に焦点を当ててであろう。すなわち、回転翼機の厳しい現状（ヘリコプター搭載可能艦が約50隻しかなく、ヘリコプターもほとんどない）や乗組員の海技技能が出身機関によって異なり、訓練が均一ではないこと、船が乗組員に求めるものが乗員訓練を上回っていることなどである<sup>38</sup>。この状況改善の

造され、運用寿命が終わりに近づいている小型船の船隊の大規模船隊へ交換を継続するために、より小型の沿岸巡視船と哨戒戦闘艦艇を優先するようになるであろう。中国海警局は間違いなく、まだ残る主要な

弱点分野の是正に焦点を当てるであろう。すなわち、回転翼機の厳しい現状（ヘリコプター搭載可能艦が約50隻しかなく、ヘリコプターもほとんどない）や乗組員の海技技能が出身機関によって異なり、訓練が均一ではないこと、船が乗組員に求めるものが乗員訓練を上回っていることなどである<sup>38</sup>。この状況改善のために、中国海警局はヘリコプター（輸入または国産）を含む追加の海上哨戒航空機を取得し、計画、通信、および作戦統制を強化するであろう。

中国は引き続き、確立された領海およびEEZの安全執行に焦点を当てるであろうが、中国海警局は中国の海洋権益の主張を支援するため、ならびに執行および監視任務を遂行するために、第一列島線内の海域を定期的に活動し続けるであろう。パラセル諸島とスプラトリー諸島における前進基地の拡張に基づいて、中国海警局の運用テンポが進み、中国海軍と中国海上民兵との調整が容易になる。これらの中国海警局能力の拡大は、中国の海洋戦略における決定的な転換を支えている。つまり、3つの海上部隊が地域に海に焦点を当てる態勢から、その任務の分業が進化して、第一の海上部隊である中国海軍が遠洋の任務に大幅に拡大、集中している。そのような地域作戦は中国の第二の海上部隊の焦点となるであろうが、大型の中国海警局船は、プレゼンスと影響力を高めるため、太平洋やインド洋に展開することが増え、米国、日本、韓国、ロシア、およびインドを含む他の主要国との共同沿岸警備演習に参加することも増えるであろう。前述のとおり、デザインは新しい任務に合わせて調整される。さらに、大規模なインフラ、進化する船舶設計、および広範にわたるCOTS化を進めることで、中国は必要に応じて中国海警局船の迅速な大量建造が可能となった。船隊の増勢と近代化の速さについては、中国の第二の海上部隊がすでにリードしている。

定  
ple's  
ons on  
ina's  
民法  
ourt),  
un-

をけた  
目られて  
事係争  
ているこ  
司法主  
「中国  
道として  
が、よ  
する。羅  
海上司法  
sistively  
ial  
y the  
es」,  
2016,  
16/08/

活動し  
良には  
の犯罪」  
い。むし  
阻止し、  
政治的好  
う新たな  
に作られ

院の3人  
ナ海にお  
」(制限)  
者は中国  
「南シナ  
関係当  
を提言し

g, Pan  
を談中

国海警の建設与发展”[“Construction and Development of the China Maritime Police from the Perspective of the Current Situation in the South China Sea”], 公安海警学院报 [Journal of China Maritime Police Academy] 10, no. 4 (2011): 54.

- 29 席志刚 [Xi Zhigang], “中国海警局的前路”[“The Way Forward for the China Coast Guard”], 中国新闻周刊 [China Newsweek] 5 (2014): 67.
- 30 蓝志文 [Lan Zhiwen], “全国海警首座渡海登岛训练场在厦门落成”[“Xiamen Has Built the Coast Guard's First Training Center for Island Landings”], 中国警察网 [China Police Online], March 11, 2015, [http://bf.cpd.com.cn/n26357304/c27947047/content\\_2.html](http://bf.cpd.com.cn/n26357304/c27947047/content_2.html).

#### 第7章

- 1 Andrew S. Erickson, “Numbers Matter: China's Three ‘Navies’ Each Have the World's Most Ships,” *National Interest*, February 26, 2018, <http://nationalinterest.org/feature/numbers-matter-chinas-three-navies-each-have-the-worlds-most-24653>.
- 2 Ryan D. Martinson, “China's Second Navy,” U.S. Naval Institute *Proceedings* 141, no. 4 (April 2015), <https://www.usni.org/magazines/proceedings/2015-04-0/chinas-second-navy>.
- 3 Lyle J. Morris, “Blunt Defenders of Sovereignty: The Rise of Coast Guards in East and Southeast Asia,” *Naval War College Review* 70, no. 2 (Spring 2017): 84, <http://digital-commons.usnwc.edu/nwc-review/vol70/iss2/5/>.
- 4 日本の海上保安庁は約 80 隻、韓国は約 45 隻、米国沿岸警備隊は約 50 隻保有している。特に指定がない限り、その数値はすべて以下を含むオープンソースに基づく著者の推定値である。China's People's Liberation Army Navy (PLAN), Coast Guard, and Government Maritime Forces 2018 Recognition and Identification Guide (Suitland, MD: Office of Naval Intelligence, July 2018), <http://www.oni.navy.mil/Portals/12/Intel%20agencies/PLANavy.jpg?ver=2018-07-16-090249-333>.
- 5 ただしベトナムはその後、このような行動から防護すべく船を改造し、大容量の放水砲を設置した。
- 6 トン数や排水量は耐航性を正確に計る尺度ではない。たとえば多くの中国海上民兵の船は大洋を横断して行動できるが、500トン未満である。また、1,000トン以上でも沖合の行動に適していない船もある。本章の表では読みやすさと容易な指標としてこれらのカテゴリーでグループ分けしたが、実際に「外洋船」か「沿岸船」かの判断基準はない。「沖合で行動できる」という表現とそれに関する数値はその船が海岸からかなり遠距離で適切に行動できるか判断するための分析結果によるものである。排水量に関係なく沿岸で行動できない船は含まれていない。
- 7 中国海警局は洋上補給能力がないため、補給が必要な時には入港する必要がある。
- 8 Ryan D. Martinson, “From Words to Actions: The Creation of the China Coast Guard,” conference paper for “China as a ‘Maritime Power,’” CNA Corporation, Arlington, VA, July 28–29, 2015, 14, [https://www.cna.org/cna\\_files/pdf/creation-china-coast-guard.pdf](https://www.cna.org/cna_files/pdf/creation-china-coast-guard.pdf).
- 9 Office of Naval Intelligence, *The PLA Navy: New Capabilities and Missions for the 21st Century* (Suitland, MD: Office of Naval Intelligence, 2015), 44–45, [http://www.oni.navy.mil/Portals/12/Intel%20agencies/China\\_Media/2015\\_PLA\\_NAVY\\_PUB\\_Print.pdf?ver=2015-12-02-081247-687](http://www.oni.navy.mil/Portals/12/Intel%20agencies/China_Media/2015_PLA_NAVY_PUB_Print.pdf?ver=2015-12-02-081247-687); Martinson, “From Words to Actions”; Koh Swee Lean Collin, “China's White Hull Challenge in the South China Sea,” *National Interest*, January 13, 2016, [www.nationalinterest.org/feature/chinas-white-hull-challenge-the-south-china-sea-14890](http://www.nationalinterest.org/feature/chinas-white-hull-challenge-the-south-china-sea-14890).
- 10 Stephen Saunders, *IHS Jane's Fighting Ships 2015–2016*, 116th ed. (London: IHS, 2015), as well as earlier editions.
- 11 これは 1990 年代から 2000 年代初頭にかけて、ほとんどの統合軍事組織でホワイト・ハルを表すために使われた用語である。「W」は非海軍従属を示し、「AGOR」は海洋調査船を意味している。
- 12 Masufumi Iida, “Maritime Expansion by

- China,” Sasakawa Peace Foundation, October 22, 2014, <https://spfusa.org/research/maritime-expansion-by-china-as-it-pursues-changes-in-order/>.
- 13 漁業法執行機関は米国沿岸警備隊とも非常に緊密な協力関係にある。
- 14 Xiao Ming, “China Maritime Safety Administration in the New Millennium: Challenges and Strategies,” diss., World Maritime University, 2000, especially 13, 21, [http://commons.wmu.se/cgi/viewcontent.cgi?article=1423&context=all\\_dissertations](http://commons.wmu.se/cgi/viewcontent.cgi?article=1423&context=all_dissertations).
- 15 たとえば次を参照されたい。Yang Chang, “CMS Tianjin Rights Protection Law Enforcement Fleet Is Set Up” (“Zhongguo Haijian Tianjin Shi Weiquan Zhifa Chuandui Guapai”), *China Ocean News*, April 19, 2013, 4; Martinson, “From Words to Actions,” 18, 44–45; Ryan Martinson, “Power to the Provinces: The Devolution of China’s Maritime Rights Protection,” *China Brief* 14, no. 17 (September 10, 2014), <https://jamestown.org/program/power-to-the-provinces-the-devolution-of-chinas-maritime-rights-protection/>.
- 16 孙鼎 [Sun Ding], “海监队员是怎样炼成的” [“How CMS Personnel Are Trained”], 中国海洋报 [*China Ocean News*], December 27, 2013, 3; Martinson, “From Words to Actions,” 14; State Oceanic Administration, *China’s Ocean Development Report* (2013) (Beijing: State Oceanic Administration Press, 2014), 267.
- 17 中国海警局統合 (2013 年) 以降は、新たに専門化した船はほとんど建造されていない。統合は 4 年前に行われたので、ほとんどの船はその前に計画および/または発注されたものである。今のところ統合後の中国海警局は、まだ新船を多くは取得していない。
- 18 しかし、インターネットの推測にもかかわらず、Zhaogao 級は Jiangdao 級コルベットをベースにしたものではない。
- 19 これは長年にわたり、漁業局がより小型で能力の低い巡視船で行ってきたと同種の協同哨戒と外洋漁業監視のことである。
- 20 Lyle Goldstein, “Chinese Fisheries Enforcement: Environmental and Strategic Implications,” *Marine Policy* 40 (2013): 187–93, <http://digitalcommons.unl.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1032&context=usnavyresearch>; “Fisheries Law Enforcement Command,” Global Security, [www.globalsecurity.org/intell/world/china/flec.htm](http://www.globalsecurity.org/intell/world/china/flec.htm).
- 21 タンプルホームとは甲板を波から保護するために、喫水線より上部の船体の幅を狭くしたものである。
- 22 “CMS—China Marine Surveillance,” Global Security, [www.globalsecurity.org/intell/world/china/cms.htm](http://www.globalsecurity.org/intell/world/china/cms.htm); “China Coast Guard,” *OPLAN China Blog*, [www.oplanchina.blogspot.com/plcms-test.html](http://www.oplanchina.blogspot.com/plcms-test.html).
- 23 China Shipbuilding Industry Corporation press releases, 2005–17, [www.csic.com.cn](http://www.csic.com.cn).
- 24 特に Shucha II 級が運用可能になると、Shucha I 級は中国海洋局の科学部門に戻され、新船が船名の頭が Zhong Guo Hai Jian と Hai Jing であるのに対して、Xiang Yang Hong と船名を変えた。
- 25 中国海事局の Shuoshi と中国海警局の Shuoshi II 級の写真に基づく直接設計分析による。
- 26 中国救助局の大型サルベージ船と比較した直接設計分析による。
- 27 “People’s Armed Police,” Global Security, [www.globalsecurity.org/intell/world/china/pap.htm](http://www.globalsecurity.org/intell/world/china/pap.htm).
- 28 [www.cjdbby.com](http://www.cjdbby.com) からの写真および Jiangkai II フリゲートの既知の構成と設計との比較に関するその他のウェブフォーラムによる。
- 29 Sinodefence website forum and blog articles, [www.sinodefenceforum.com](http://www.sinodefenceforum.com).
- 30 Hobbyshanghai website forums and blog articles, [www.hobbyshanghai.net.cn](http://www.hobbyshanghai.net.cn).
- 31 これは報道記事、写真および市販の衛星画像 (Google Earth など) の広範な調査に基づいている。
- 32 China Defense website forum and blog, [www.china-defense.com](http://www.china-defense.com). このサイトには中国の海事および海軍基地に関する議論専門の大きなサブフォーラムがあり、オープンソース画像を介した直接調査を補完するため使用した。
- 33 同上。Google Earth のオープンソース画像

プログラ  
の海岸  
海警局の  
ろうと思  
れらの基  
に Googl  
maps) を  
34 中国海  
gov.cn, 2  
中国海  
作戦任務  
数千件の  
る。  
35 Ibid.  
36 中国海  
37 中国救助  
gov.cn. 中  
水、運用  
スと写真  
国救助局  
複数の部  
地、戦闘  
る。Capt  
CRS, “An  
Salvage,”  
CA, Febru  
38 Ryan D. M  
Maritime  
Institute I  
War Colle  
www.andi  
uploads/2  
Arming-o  
Frontier\_C  
War-Colle

## 第 8 章

1 fendui (フ  
国部隊の  
(budui /  
合、「サブ  
fendui と  
ブやサイ  
さらには  
示す。この

13):

edu/cgi/  
:xt=us  
:ement

a/flec.htm.  
呆護するた  
を狭くした

," Global  
tell/world/  
d," OPLAN  
ot.com/p/

oration  
m.cn.

と、  
門に戻さ  
o Hai Jian  
ng Yang

局の  
設計分析に

比較した

urity,  
/china/

Jiangkai II  
)比較に関  
る。  
articles,

blog

の衛星画  
調査に基づ

g, www.  
国の海事  
の大きな  
ス画像  
費用した。  
ス画像

プログラムを使用して、数年にわたって中国の海岸線を調査した結果、確認済みの中国海警局の船舶用の基地とおそらく基地であろうと思われる位置が明らかになった。これらの基地の地名と施設名を決定するために Google Maps 2010-18 (<http://google.com/maps>) を使用した。

- 34 中国海事局公式ウェブサイト (<http://en.msa.gov.cn>, 2015-2018 年のさまざまな日付) には中国海事局船の進水、発注、儀式イベント、作戦任務の詳細、および写真が記載された数千件の公式プレスリリースが含まれている。
- 35 Ibid.
- 36 中国海事局とは頻りに調整している。
- 37 中国救助局公式ウェブサイト <http://en.crs.gov.cn>. 中国救助局は自局の契約、船の進水、運用、救助/サルベージのプレスリリースと写真を定期的に掲載している。また中国救助局は独自のウェブサイトを管理する複数の部がある。中国救助局の任務、基地、戦闘編成の詳細を次から紹介している。Captain Song Jiahui, director-general, CRS, "An Introduction of China Rescue and Salvage," presentation at conference, Anaheim, CA, February 2009.
- 38 Ryan D. Martinson, *The Arming of China's Maritime Frontier*, China Maritime Studies Institute Report no. 2 (Newport, RI: Naval War College, June 2017), 9-10, 24, [http://www.andrewerickson.com/wp-content/uploads/2018/04/Martinson\\_Ryan\\_The-Arming-of-China%E2%80%99s-Maritime-Frontier\\_China-Maritime-Report-2\\_Naval-War-College-CMSI-June-2017.pdf](http://www.andrewerickson.com/wp-content/uploads/2018/04/Martinson_Ryan_The-Arming-of-China%E2%80%99s-Maritime-Frontier_China-Maritime-Report-2_Naval-War-College-CMSI-June-2017.pdf).

## 第 8 章

- 1 fendui (フェンディ) という用語は、特に中国部隊のサブ連隊レベルのコンポーネント (budui / 部隊) を示すために使用される場合、「サブユニット」としても翻訳できる。fendui という用語は、ユニットの特定のタイプやサイズを示すのではなく、大隊から小隊、さらには分隊に至るまでの範囲のユニットを示す。このため、特定の種類のユニット (中

隊や小隊など) が指定されている場合を除き、pinyin (ピンイン) は全体を通して使用される。

- 2 新疆ウイグル自治区とチベットの軍区は、国防動員部ではなく、中国陸軍司令部に報告する。これは、他の軍区よりも 1 段階高い等級であり、それらに国防動員部と同じ等級を与え、直接報告関係を不可能にしている。
- 3 陈青松 [Chen Qingsong], "海防地区支援保障海上作战准备存在的问题与对策" ["Problems and Solutions in the Coastal Defense Zone's Preparations for Assisting and Supporting Maritime Operations"], 国防 [National Defense] 10 (2016): 50.
- 4 Ibid
- 5 罗文义 [Luo Wenyi], 刘金鹏 [Liu Jinpeng], and 严秋涛 [Yan Qiutao], "扩建海上民兵队伍: 联合作战, 民兵不缺席" ["Expanding Maritime Militia Forces: In Joint Operations, the Militia Is Not Absent"], 中国国防报 [China National Defense News], January 25, 2016.
- 6 张国臣 [Zhang Guochen], "海上民兵参加海上封控行动研究" ["Research on Maritime Militia Participation in Maritime Control Operations"], 国防 [National Defense] 11 (2016): 41.
- 7 「驱离外来舰船中国民兵进驻南沙人工岛」 ["Expelling Foreign Ships-Chinese Militia Stationed on Nansha Artificial Islands"], 多维新闻 [Duowei News], 2016 年 1 月 27 日、<http://military.dwnews.com/news/2016-01-27/59713771.html>.
- 8 Zhang, "Research on Maritime Militia Participation in Maritime Control Operations," 41.
- 9 Luo et al., "Expanding Maritime Militia Forces."
- 10 Zhang, "Research on Maritime Militia Participation in Maritime Control Operations," 42.
- 11 王赫 [Wang He], "民兵应急响应战任务多样, 如何掌控全局?" ["Diversity of Militia Emergency Response and War Tasks—How to Control the Overall Situation?"], 中国国防报 [China National Defense News], September 28, 2016.
- 12 徐守洋 [Xu Shouyang], "海上支援作战能